

二〇二五年一〇月四日

鷺群れて刈田のあとを啄めり
秋霖の街にくぐもるミサの鐘
青空に羽衣めきし秋の雲
身罷りしいのちにも似て流れ星
猫額の狭庭なれども秋気満つ

二〇二五年一〇月三日

パノラマに花野を望むカフェテラス
秋風や一人居に家広すぎて
身に入むや数百体の水子地藏
秋霖に滲む巨影は石舞台

二〇二五年一〇月二日

槌音の飮す天の高きより
落つ秋日水平線を黄金に
春く日展ぶ梨園の広さかな

二〇二五年一〇月一日

秋薔薇の粗なるアーチを風抜ける

二〇二五年九月三〇日

人のゐぬテニスコートに赤蜻蛉

二〇二五年九月二十九日

曼珠沙華燃え立つなかに忠魂碑
風に伏す秋草剪つて生けにけり
タクト振るものの居るらし虫の樂

二〇二五年九月二八日

木の実落ち日の斑の径に紛れけり

えいじ

毎日句会みのる選・二〇二五年一〇月六日

千鶴	むべ	山椒	澄子	あひる	康子	よし女	ぽんこ	やよい	きよえ	むべ	なつき	ぽんこ	ぽんこ	むべ	よし女
----	----	----	----	-----	----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	----	-----